県単道路改良事業主要地方道松任宇ノ気線に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

金沢市

専光寺養魚場遺跡

2006

石 川 県 教 育 委 員 会

(財)石川県埋蔵文化財センター

専光寺養魚場遺跡

（せんこうじようぎょじょう）

2006

石川県教育委員会

(財)石川県埋蔵文化財センター

例　　言

1　本書は専光寺養魚場遺跡の発掘調査報告書である。

2　遺跡の所在地は金沢市専光寺町地内である。

3　調査原因は県単道路改良事業主要地方道松任宇ノ気線であり、同事業を所管する石川県土木部道路建設課が、石川県教育委員会に発掘調査を依頼したものである。

4　調査は財団法人石川県埋蔵文化財センターが石川県教育委員会から委託を受けて、平成15（2003）年度および平成17（2005）年度に実施した。業務内容は現地調査、出土品整理、報告書刊行である。

5　調査に係る費用は、石川県土木部道路建設課が負担した。

6　現地調査は平成15年度に実施した。期間・面積・担当課・担当者は下記のとおりである。

期　間　平成15年11月14日～同年12月３日

面　積　170㎡

担当課　調査部調査第３課

担当者　岡本恭一（専門員）、澤辺利明（課主査）

7　出土品整理は平成17年度に実施し、企画部整理課が担当した。

8　報告書刊行は平成17年度に実施し、調査部調査第３課が担当した。報告書の執筆・編集は澤辺（調査専門員）が行った。

9　調査には下記の機関・個人の協力を得た。

石川県土木部道路整備課、県央土木総合事務所（旧金沢土木事務所）、金沢市教育委員会、楠正勝、増山仁

10　調査に関する記録と出土品は石川県埋蔵文化財センターで保管している。

11　本書の凡例は下記のとおりである。

（１）方位は磁北である。

（２）水平基準は海抜高であり、Ｔ．Ｐ．（東京湾平均海面標高）による。

（３）出土遺物番号は挿図と写真で対応する。

目　　次

第１章　調査の経緯と経過 …… 1

第２章　位置と環境 …… 3

第３章　調査の成果 …… 6

第１節　概　　要 …… 6

第２節　検出遺構・遺物 …… 6

第３節　ま と め …… 13

挿図目次

第１図　調査区位置図(S=１／10,000) …… 1
第２図　工事計画と調査区の位置(S=1/1,000) …… 2
第３図　遺跡の位置 …… 3
第４図　周辺の遺跡(S=1/25,000) …… 4
第５図　調査区全体図(S=1/100) …… 6
第６図　１区遺構平・断面図(S=1/40) …… 8
第７図　１区南半～２区北半遺構平・断面図(S=1/40) … 9
第８図　２区北半～３区遺構平・断面図(S=1/40) …… 10
第９図　出土遺物１(ピット、ＳＫ) …… 11
第10図　出土遺物２(ＳＫ、ＳＤ) …… 12
第11図　出土遺物３(分布調査時出土) …… 13

表 目 次

第１表　周辺の遺跡一覧表 …… 5
第２表　出土遺物観察表 …… 14

図版目次

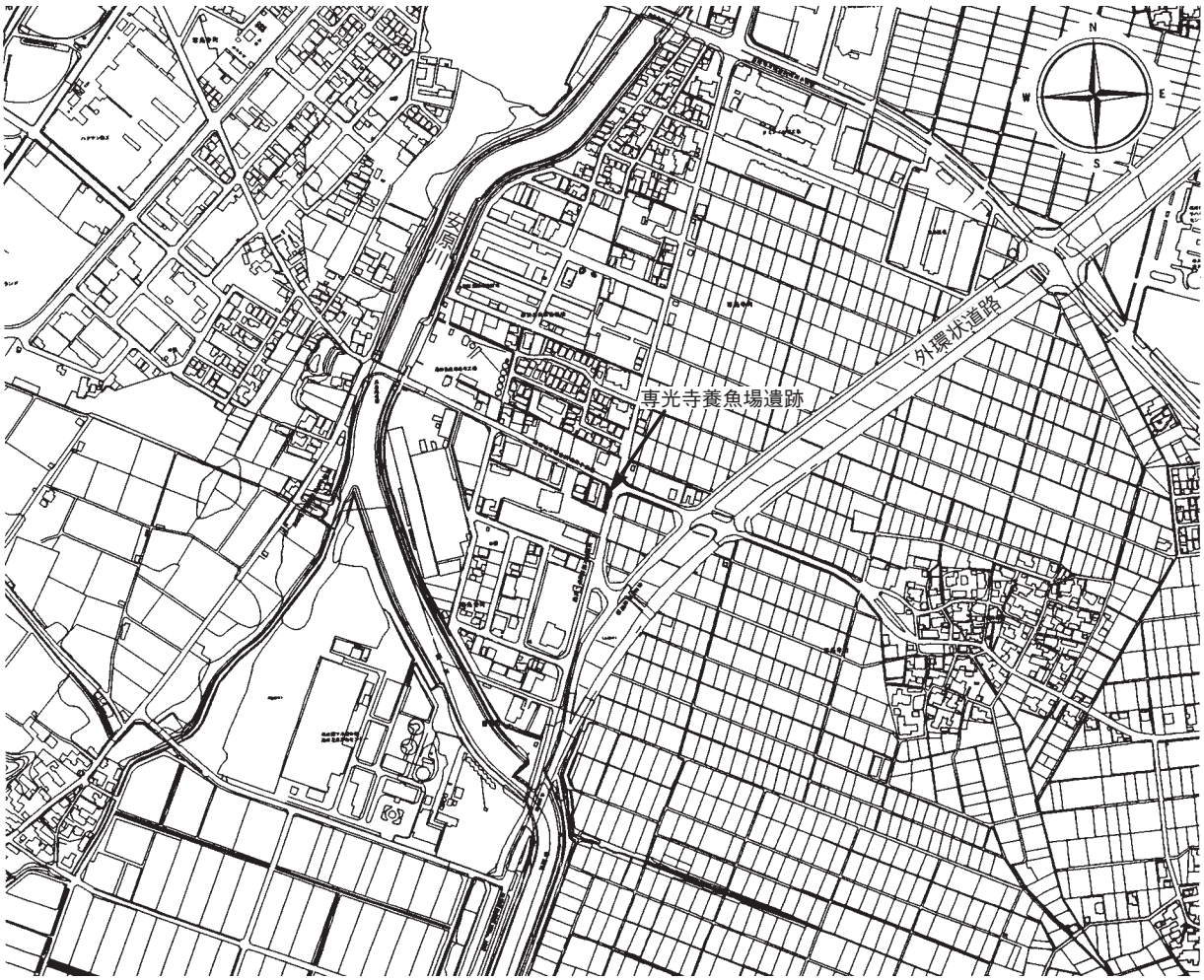
図版１上左　遺跡遠景（南から）
上右　遺跡遠景（南東から）
中左　調査着手前の状況（南西から）
中右　遺構検出状況（南西から）
下　完掘状況（全景、南西から）
図版２上　１区完掘状況（南西から）
中左　Ｐ５完掘状況（南西から）
中右　Ｐ７柱根（西から）
下左　Ｐ８柱根（北西から）
下右　Ｐ14柱根（南東から）
図版３上左　３区完掘状況（南から）
上右　ＳＫ01・02、ＳＤ01完掘状況（東から）
中上左　ＳＫ01断面（東から）
中上右　ＳＫ03完掘状況（西から）
中下左　ＳＫ03断面（西から）
中下右　ＳＤ04完掘状況（南東から）
下左　ＳＤ04断面（南東から）
下右　ＳＤ05完掘状況（南東から）
図版４　出土遺物

第１章　調査の経緯と経過

１．調査にいたる経緯　調査原因である県土木部道路建設課所管の県単道路改良事業主要地方道松任宇ノ気線については、国道８号をはじめとする金沢市周辺の幹線道路の慢性的渋滞の解消、あるいは沿線市町や加賀・能登を結ぶ大動脈として建設が進められている金沢外環状道路整備の一環として実施されてきたものである。発掘調査区域は、松任宇ノ気線専光寺交差点から外環状道路への取り付け区間整備に係り計画された交差点南西側の新設歩道部分にあたる。

石川県教育委員会文化財課では毎年、関係部局に対し次年度実施予定の事業内容の照会を行い、各事業について埋蔵文化財の保護が図られるよう調整を行っているが、その中で上記道路改良事業計画が知られることとなり、文化財課では道路建設課と協議しながら、順次、区域内での分布調査を進めていった。本遺跡に関しては平成３年、隣接地において民間開発に伴い金沢市教育委員会による発掘調査が実施されている（金沢市教育委員会 1992『金沢市専光寺養魚場遺跡』）ことから、事業区域にまで遺跡の広がることが十分予想されたものであり、平成11年３月、平成14年10月および平成15年10月の３回に分けて実施された分布調査により遺跡の確認とその分布範囲決定が行われている。

確認された遺跡の取り扱いについては文化財課と道路建設課の協議の結果、計画変更が不可なこと



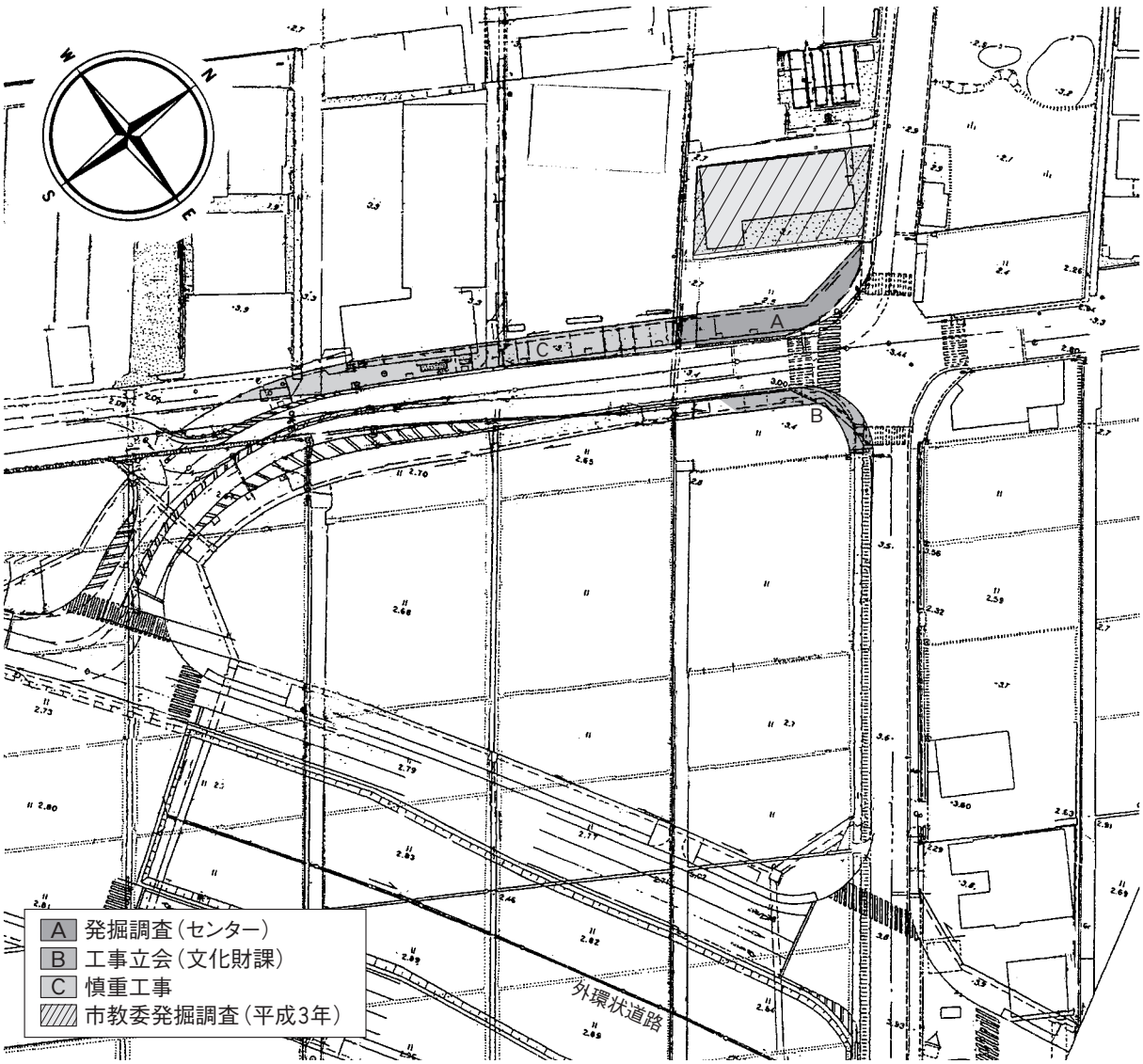
第１図　調査区位置図（S＝１/10,000）

から事前の発掘調査等による記録保存とすることとなり、そのうち、狭小な部分については文化財課職員による工事立ち会い対応とし、幅を広める交差点南西部分については事前の発掘調査を行うこととなった。また、歩道部分にあたり遺跡まで掘削の及ばない範囲は慎重工事対応とした（第２図）。

２．現地調査　道路建設課から依頼を受けた文化財課（石川県）からの委託事業として、平成15年度に財団法人石川県埋蔵文化財センターが実施し、調査部調査第３課岡本恭一・澤辺利明が現地調査を担当した。

平成15年11月14日に県央土木総合事務所、文化財課、埋蔵文化財センターとの間で現地協議が行われ、調査範囲・ユニットハウス設置場所・駐車場所等を確認した。11月19日に重機による表土除去に着手した。一帯は過去の耕地整理等により大幅な削平を受けており包含層はほとんど確認されず、耕土直下で遺構が検出された。同日、遺構検出を終了し、27日にかけて調査員２名に作業員２名を加え遺構掘削を行った。11月28日～12月１日に図面作成、12月３日に埋め戻しを行い現地作業を完了した。

３．出土品整理・報告書刊行　道路建設課から依頼を受けた文化財課（石川県）からの委託事業として、平成17年度に財団法人石川県埋蔵文化財センターが実施した。出土品整理は企画部整理課が担当し５月２日～５月20日に実施、報告書刊行は調査部調査第３課が担当した。



第２図　工事計画と調査区の位置（S＝１/1,000）

第2章　位 置 と 環 境

１．遺跡の位置　石川県は本州のほぼ中央にあって、日本海に突き出た能登半島を擁する。能登半島の北半は岩場が多くを占めるが、南半は、九頭竜川や手取川等の大河川からの流出土砂によって形成された砂丘が発達している。金沢市は半島南半にあって、東は白山から連なる海抜1,500m前後の山地が、西は平野が開け、海岸線には砂丘が横たわっている。遺跡は金沢市街地西方にあって、日本海からの距離は約1.5㎞。北方には市２大河川の一つ犀川が大きく蛇行し、南方から北流してきた安原川は遺跡近くで砂丘沿いに流れを変え、犀川に合流する。遺跡はこれら河川により形成された後背湿地中の微高地上に立地したものとみられる。

２．遺跡の環境　遺跡密集地として知られる金沢市西部域にあって本遺跡周辺は比較的分布密度の薄い地域である。その要因として、河口近くにきて大きく蛇行した犀川の氾濫原として生活に適さない低湿地が広がっていたことが推測される。だが、一歩離れると犀川による肥沃な扇状地として開発が進められ、多くの遺跡が知られている。現代においても市街区域として開発が伸張し、その結果、多数の発掘調査が実施され各時代の様相が明らかにされている地域である。個別内容は各発掘調査報告書によるとして、ここでは、犀川を軸に右岸域と左岸域に分け各時代の遺跡分布状況を概観することで、本遺跡周辺の環境を考えていく一助としたい。

縄文時代　右岸では45寺中Ｂ遺跡を頂点とし、47畝田遺跡、37松村Ａ遺跡 、38松村Ｂ遺跡にかけて分布する。左岸では、39普正寺番屋砂丘遺跡が単独に位置し、33北塚遺跡、34稚日野遺跡を頂点とし13南塚遺跡が中位に、南は15上安原遺跡、18中屋遺跡、23森戸本町遺跡、24古府遺跡にかけて分布域を広げる。遺跡分布は右岸・左岸部とも現流路に沿うが、海浜域や右岸部の進出は局所的である。

弥生時代　右岸では頂点はやや西に広がり42金石本町遺跡とし、37、38から57桂遺跡、60無量寺金沢港遺跡まで広がる。左岸でもやや離れるが35佐奇森遺跡、１専光寺養魚場遺跡を頂点とし、中位で８安原工業団地Ｂ遺跡、９安原工業団地Ａ遺跡、10緑団地下水処理場遺跡、12上安原緑団地遺跡、33北塚遺跡が、そして南は62八田中ヒエモンダ遺跡から20上安原陸橋遺跡、21矢木ジワリ遺跡、27高畠遺跡まで分布を広げている。遺跡分布は河口の普正寺町、観音堂町、赤土町では認められず、、専光寺町周辺のものは局所的な立地とみられ、主体は北塚町、豊穂町辺りまでである。

古墳時代　右岸では犀川に接する41普正寺高畠遺跡を頂点とし、東は37から57、58無量寺Ｂ遺跡、59無量寺遺跡、60無量寺金沢港遺跡までと最も広範囲の遺跡分布をみせる。左岸は１、３専光寺染色団地遺跡を頂点とし、幅をやや狭め、中位に11緑団地公園遺跡、12、34を、南は20、21、22森戸バイパス遺跡、27までである。また、扇の要に位置するように30おまる塚古墳、31宇佐神社古墳、32北塚古墳群が密集して築かれる。遺跡分布は現流路に沿って幅約１㎞の空白地を残すが、海岸部を除き全域に認められる。

第３図　遺跡の位置

第４図　周辺の遺跡（S＝１/25,000）

No.	県遺跡No.	遺　跡　名	所　在　地	時　代
1	01092	専光寺養魚場遺跡	金沢市専光寺町	古墳～平安
2	01091	吉藤専光寺跡	金沢市専光寺町	室町
3	01093	専光寺染色団地遺跡	金沢市専光寺町	古墳
4	01090	御館前遺跡	金沢市専光寺町	不詳
5	－	豊穂遺跡	金沢市豊穂町	平安・中世
6	01038	専光寺海岸遺跡	金沢市専光寺町	奈良・平安
7	01039	下安原遺跡	金沢市下安原町	縄文･古墳･中世･近世
8	01040	安原工業団地Ｂ遺跡	金沢市下安原町	弥生～平安
9	01041	安原工業団地Ａ遺跡	金沢市福増町	弥生・平安
10	01042	緑団地下水処理場遺跡	金沢市中屋町	弥生・室町
11	01043	緑団地公園遺跡	金沢市上安原町	古墳・平安
12	01044	上安原緑団地遺跡	金沢市上安原町	弥生・古墳
13	01045	南塚遺跡	金沢市南塚町	縄文・古墳
14	01046	びわ塚古墳	金沢市南塚町	古墳
15	01047	上安原遺跡	金沢市上安原町	縄文･古墳～平安
16	01048	中屋ヘシタ遺跡	金沢市中屋町	奈良～中世
17	01049	福増遺跡	金沢市福増町	不詳
18	01050	中屋遺跡	金沢市中屋町	縄文晩期
19	01057	矢木ヒガシウラ遺跡	金沢市矢木	弥生・古墳
20	01058	上安原陸橋遺跡	金沢市上安原町	弥生・古墳
21	01059	矢木ジワリ遺跡	金沢市矢木	弥生・古墳
22	01060	森戸バイパス遺跡	金沢市森戸	古墳
23	01061	森戸本町遺跡	金沢市森戸	縄文
24	01078	古府遺跡	金沢市古府	縄文中期
25	01080	黒田町遺跡	金沢市黒田	平安
26	01081	松島ナカオサ遺跡	金沢市松島	平安～中世
27	01082	高畠遺跡	金沢市高畠	弥生・古墳
28	01083	古府Ｂ遺跡	金沢市古府	不詳
29	01084	古府クルビ遺跡	金沢市古府	弥生～平安
30	01085	おまる塚古墳	金沢市北塚町	古墳
31	01086	宇佐神社古墳	金沢市北塚町	古墳
32	01087	北塚古墳群	金沢市北塚町	古墳
33	01088	北塚遺跡	金沢市北塚町	縄文･弥生･平安･中世
34	01089	稚日野遺跡	金沢市稚日野町	縄文・古墳
35	01094	佐寄森遺跡	金沢市佐寄森町	弥生･平安～近世
36	01095	松村どのまえ遺跡	金沢市松村	弥生中期
37	01096	松村Ａ遺跡	金沢市松村	縄文･古墳･中世
38	01097	松村Ｂ遺跡	金沢市松村	縄文･弥生･江戸
39	01253	普正寺番屋砂丘遺跡	金沢市普正寺町	縄文･奈良･平安
40	01254	普正寺遺跡	金沢市普正寺町	鎌倉・室町
41	01255	普正寺高畠遺跡	金沢市普正寺町	古墳後期･鎌倉
42	01256	金石本町遺跡	金沢市金石本町	弥生～平安
43	01257	寺中御台場遺跡	金沢市寺中町	江戸
44	01258	寺中遺跡	金沢市寺中町	弥生中期･後期
45	01259	寺中Ｂ遺跡	金沢市寺中町	縄文晩期～平安
46	01260	畝田・寺中遺跡	金沢市畝田西	古墳～中世
47	01261	畝田遺跡	金沢市畝田	縄文晩期～平安
48	01262	畝田大徳川遺跡	金沢市畝田	奈良～室町
49	01263	畝田Ｂ遺跡	金沢市畝田	弥生～平安
50	01264	畝田御台場跡	金沢市畝田	江戸
51	01265	畝田Ｃ遺跡	金沢市畝田	弥生～平安
52	01268	観音堂遺跡	金沢市観音堂町	不詳
53	01269	松村西の城遺跡	金沢市松村	古墳・平安
54	01270	松村平田遺跡	金沢市松村	弥生中期
55	01271	松村寺の前遺跡	金沢市松村	室町
56	01277	金石北遺跡	金沢市金石北	不詳
57	01278	桂遺跡	金沢市桂町	弥生･古墳･中世
58	01279	無量寺Ｂ遺跡	金沢市無量寺	古墳
59	01280	無量寺遺跡	金沢市無量寺	古墳・中世
60	01281	無量寺金沢港遺跡	金沢市無量寺	縄文～古墳
61	08129	八田中中村遺跡	白山市八田中町	近世
62	08130	八田中ヒエモンダ遺跡	白山市八田中町	縄文・弥生・中近世

第１表　周辺の遺跡一覧表

奈良・平安時代　右岸は犀川沿いが希薄となり、左岸に位置するが39を頂点とし、42、45～47、48畝田大徳川遺跡、49畝田Ｂ遺跡、50、51畝田Ｃ遺跡、53松村西の城遺跡と細長い分布を示す。左岸は古墳時代と同様の分布状況であるが、犀川沿いの35を頂点とし、中位は８、９、11、15、16中屋ヘシタ遺跡から29、33まで、南は幅を若干狭めており、東端を29とする。遺跡分布は、右岸は畝田－普正寺町ラインへ幅を狭め、左岸は下安原町周辺で薄いが、古墳時代と同様である。

中世以降　右岸は、左岸にあたるが40普正寺遺跡を頂点とし、北は57、59から南は35、37までと古墳時代と同様再び広範囲の分布となる。左岸も右岸と同様広範囲の分布をなし、35を頂点とし、１に近接しては２吉藤専光寺跡が存在する。西は７下安原遺跡、61八田中中村遺跡まで広がる。ただし、東は26松島ナカオサ遺跡、33までとなる。遺跡分布は、右岸は再び拡大し古墳時代と同様、左岸は伏見川流域の黒田、古府町が希薄となるが、海岸部へは古墳時代と同様の分布を回復する

第３章　調 査 の 成 果

第１節　概　　要

専光寺養魚場遺跡は平成３年（1991）、金沢市教育委員会により隣接地で発掘調査が行われており、良好な一括資料の出土から、弥生時代各期の遺跡が分布する当地にあって、中期後葉を代表する遺跡の一つとされている。

１．調査区の設定（第２・５図）

発掘調査区域は既存県道を拡幅して新設される歩道部分にあたる。調査時は県道から約１ｍ下がった水田域であり、上述の金沢市教育委員会調査区域の約10ｍ東にあたる。調査範囲は南端で幅４ｍ、北端にかけて先すぼまりとなり、延長27ｍを測る。南北に細長い調査区は南西端に任意の起点をおき、10ｍ毎に区切りそれぞれ１～３区と呼称した。

２．基本層序（第６～８図）

調査区域は大方の箇所で地山まで削平を受けており、１：水田耕作土（暗褐色粘質土、厚さ約20㎝）、２：客土（灰褐色シルト質土、厚さ約５㎝）を取り除くと淡黄褐色粘質の地山土となる。地山面標高3.73ｍ。黒褐色粘質の遺物包含層は、１区北半のＳＫ03周囲でわずかに１～３㎝残るのみであった。

３．遺構・遺物（第５図）

ＳＫ（土坑）５基、ＳＤ（溝）８条、ピット10数個を検出した。うちＳＫ01は井戸跡の可能性がある。溝のうちＳＤ05は平地式住居周溝の可能性があり、その周囲に分布するピット群は、平地式住居あるいは掘立柱建物柱穴の可能性がある。遺物は、金沢市教育委員会調査時と同時期の弥生時代中期後葉の土器等がパンケース３箱分出土したほか、ピットからは柱根が３本出土した。

第２節　検出遺構・遺物

ＳＫ01（第８図）

３区北端に位置し、調査区西壁に接する。検出面で隅丸長方形をなし短辺70㎝以上、長辺160㎝以上。深さ約70㎝。肩より約20㎝内側から傾斜を強めるが、ここで一辺約100㎝の方形をなす。この方形部では一角に杭状に木片がささり、東辺に沿っては長さ

第５図　調査区全体図（S=1/100）

35㎝、幅２㎝の棒状の木片が遺存していた。掘削時には50㎝ほど掘り下げたところで湧水がはじまっており、断面丸みを帯びた底面に堆積する７層（腐植物を多く含む茶褐色粘質土）からみても、本遺構は素堀井戸の可能性がある。遺物は４～６層で土器小片が出土しており、そのうち櫛描直線文・波状文が施される８の壺肩部を図化した。

ＳＫ02（第８図）

３区北半に位置し、、調査区西壁に接する。ＳＫ01を切り、長径120㎝以上、短径90㎝の不整楕円形の土坑。深さ約10㎝と浅く、土器数点が出土した。

ＳＫ03（第７図）

１区北半に位置し、調査区東壁に接する。長径280㎝以上の不定形土坑として掘削したが、断面観察から、南半に長径約90㎝、深さ約20㎝の土坑が先に存在し、のちに北側に一回り大きい長径250㎝以上、深さ約20㎝の土坑が設けられたことがうかがわれた。いずれも浅い椀状を呈する。遺物は土器細片がパンケース約1/4箱出土し、そのうち10～12を図化した。10の甕は口唇部外面に深い刻みを加え、12の壺は外反する口縁部内面に、口唇に沿っては斜位刺突がめぐり、その内側には部分的に編み目様に刺突を加える。

ＳＫ04（第７図）

１区北半に位置し、ＳＤ06に切られる。長径136㎝、短径約70㎝、深さ56㎝の不整楕円形土坑。北西側がやや凹みピットが重複したともみられる。底部付近の灰褐色シルト質土は腐植物を多く含み、底部に堆積する淡褐色シルトはよくしまる。底に至るまで散発的に遺物が出土しており、13・14を図化した。凹線文系の甕13は短く外傾する口縁部を持ち、口唇部を内外に伸張し、外面に３条の凹線をめぐらす。凝灰岩製の14は磨石あるいは台石片であり、摩耗する表面は部分的に被熱する。

ＳＫ05（第６図）

１区北半に位置し、調査区西壁に接する。長径100㎝以上、短径85㎝、深さ20㎝の楕円形を呈する。覆土は灰黄色砂であり、ＳＤ06～08と同様、後世の遺構とみられる。

ＳＤ01（第８図）

３区に位置する長さ30㎝以上、幅40㎝、深さ８㎝を測る。覆土は褐色粘質土。土器小片を出土した。

ＳＤ02（第８図）

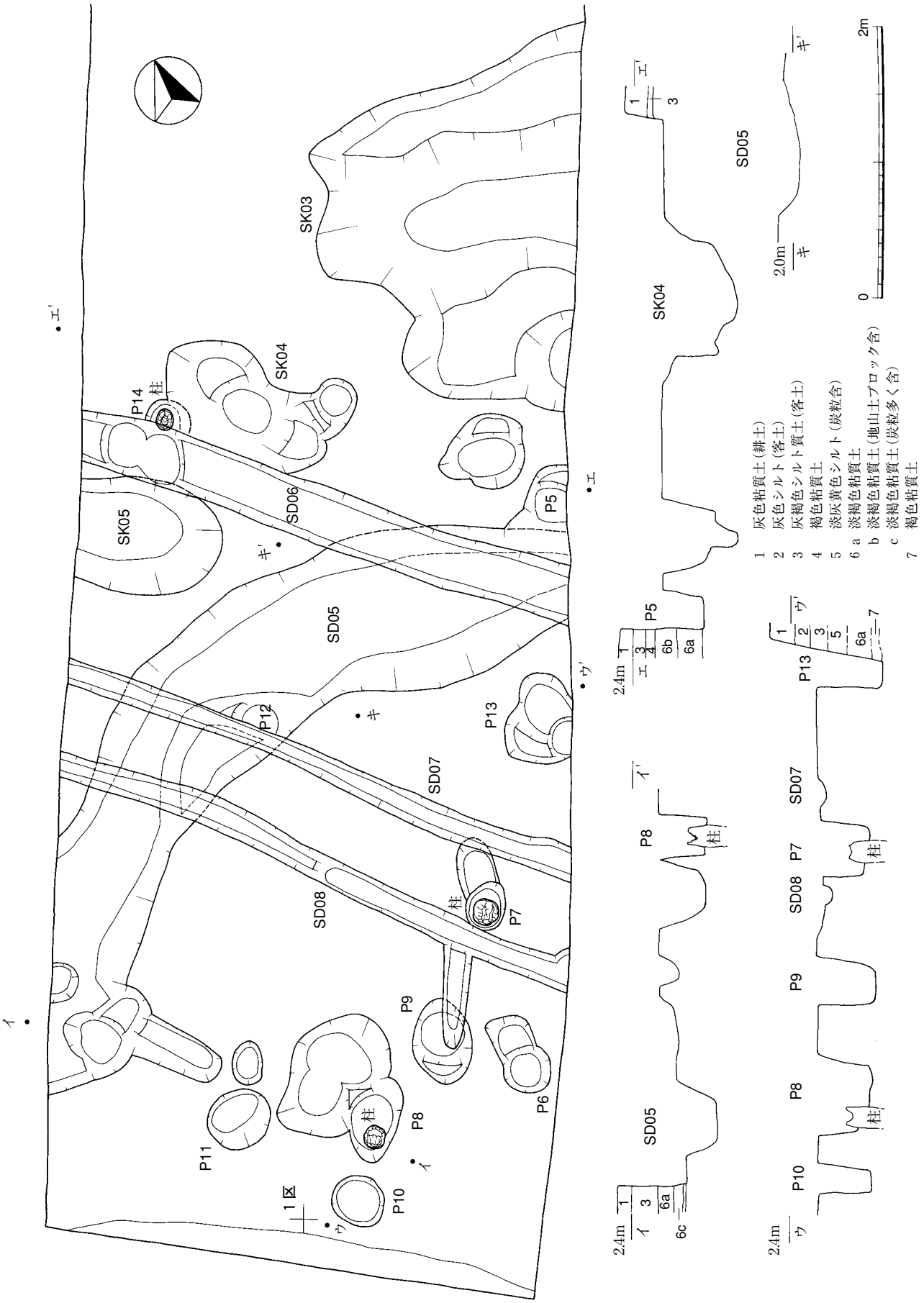
３区南半に位置し、西壁に接する。西壁部で幅約280㎝、東壁部で幅50㎝、深さは10㎝前後を測る。15の無茎三角形石鏃片の他に中・近世の陶磁器が出土した。断面からみて隣接するＳＫ02やＰ３より新しく、覆土は耕作土下の客土と同一のもので、後世の溝あるいは凹みとみられる。

ＳＤ04（第７図）

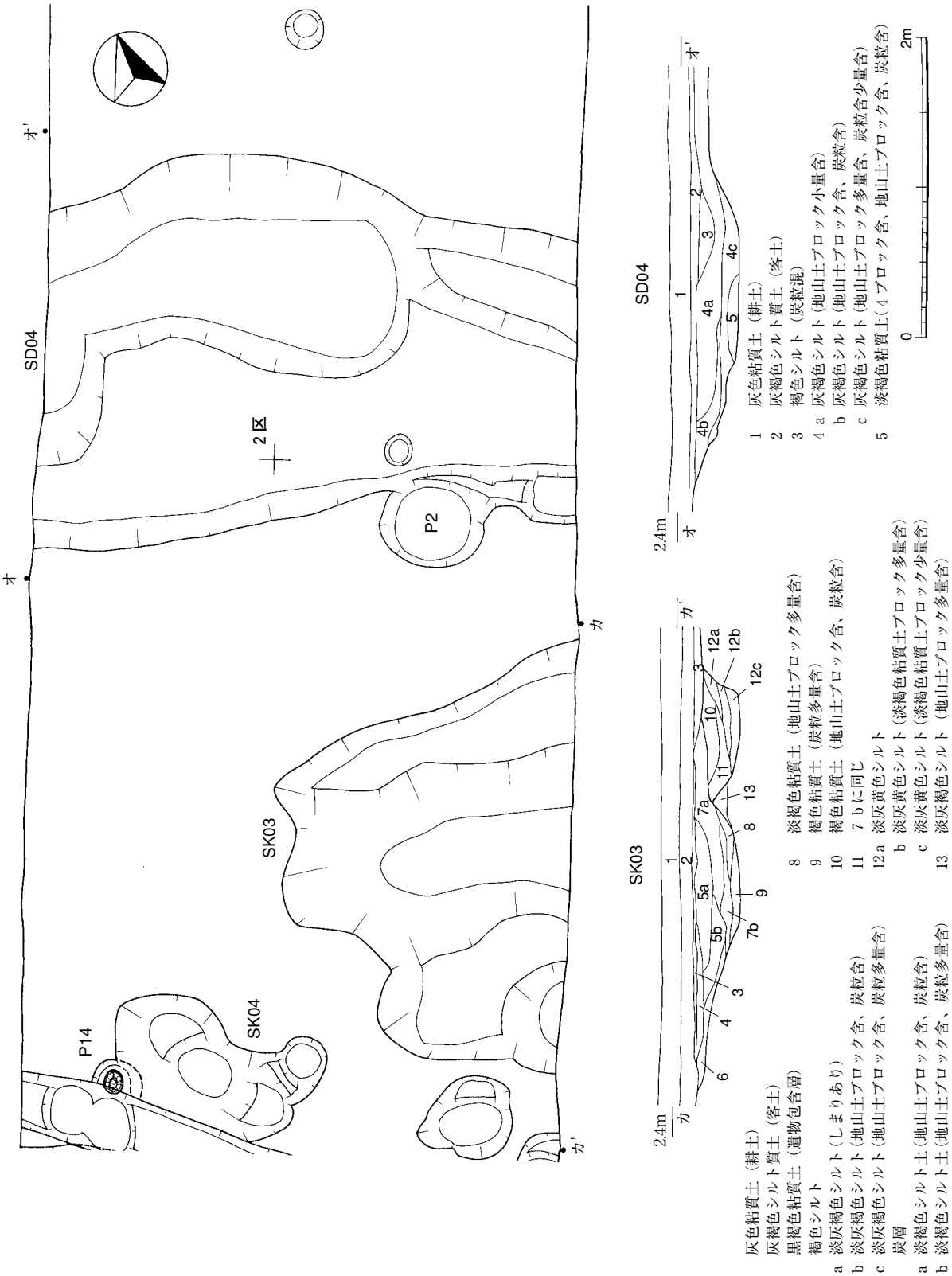
２区杭周囲で調査区を横断する。西壁部で幅220㎝、浅い皿状の断面形を呈し深さ20㎝を測る。パンケース１箱弱の遺物は東壁を起点に120㎝ごとに１～３区に細分割し取り上げ、16～21を図化した。16の甕は口縁部に直径３㎜の円孔が穿たれ、17は薄い凸帯上に斜格子を刻む。18は櫛描直線文・波状文を加える。19の高坏脚部は赤彩され凹線がめぐる。21の鉢は口唇部および無文化した口縁部に刺突を加える。

ＳＤ05（第６図）

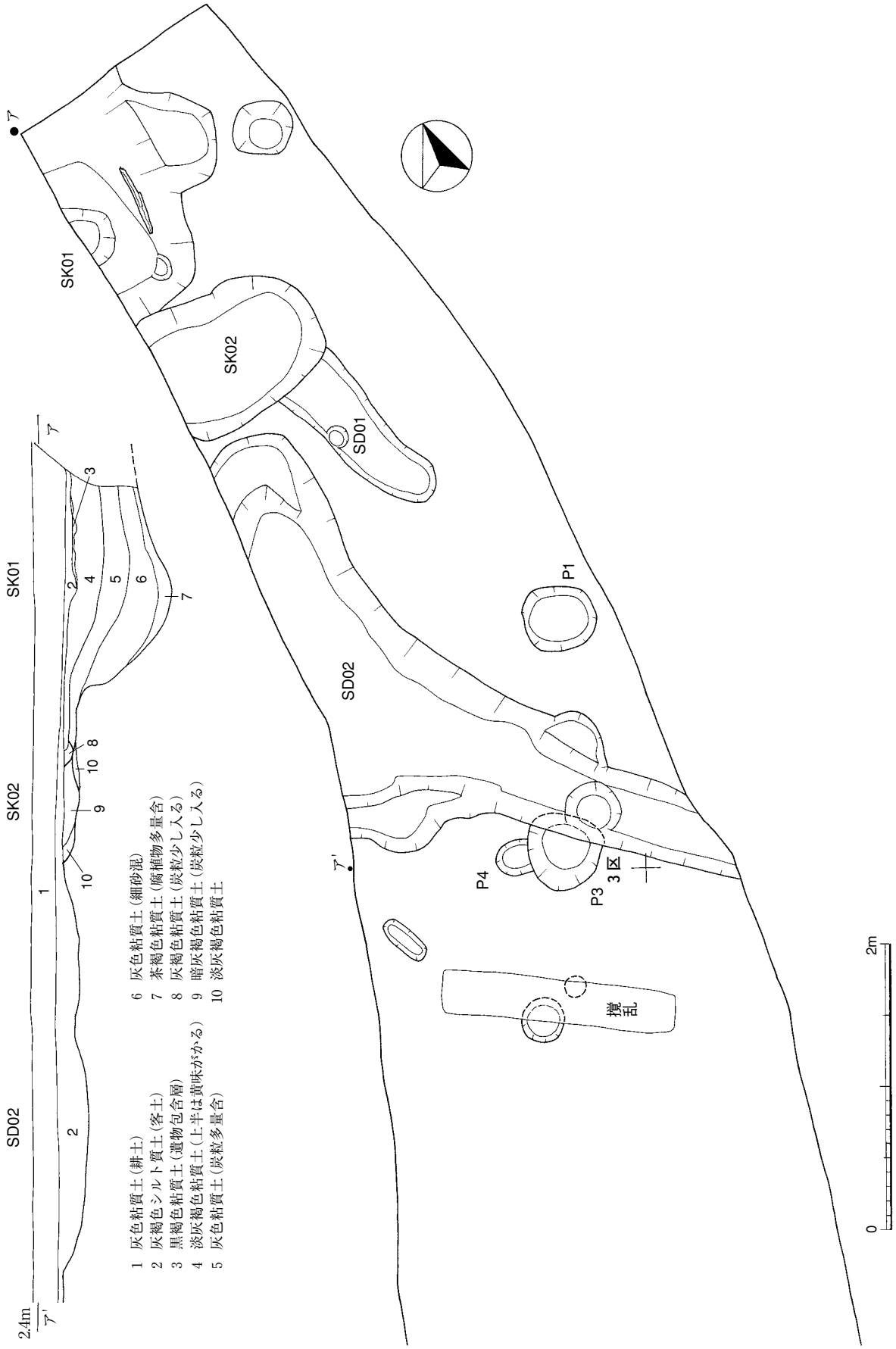
１区に位置する。幅80～120㎝、深さ20㎝前後。調査区内では弧であるが、全周するとすればＰ６辺りを中心とし、溝内法で直径約6.4ｍとなる。やや小型の部類であろうが、平地式住居外周溝の可能性を考慮したい。遺物は、中程を横断するＳＤ07により東西に二分し取り上げ、パンケース0.5箱の遺物の内、22～27を図化した。24は底部を欠くほかは全形がうかがえるものである。口唇部はわずかに



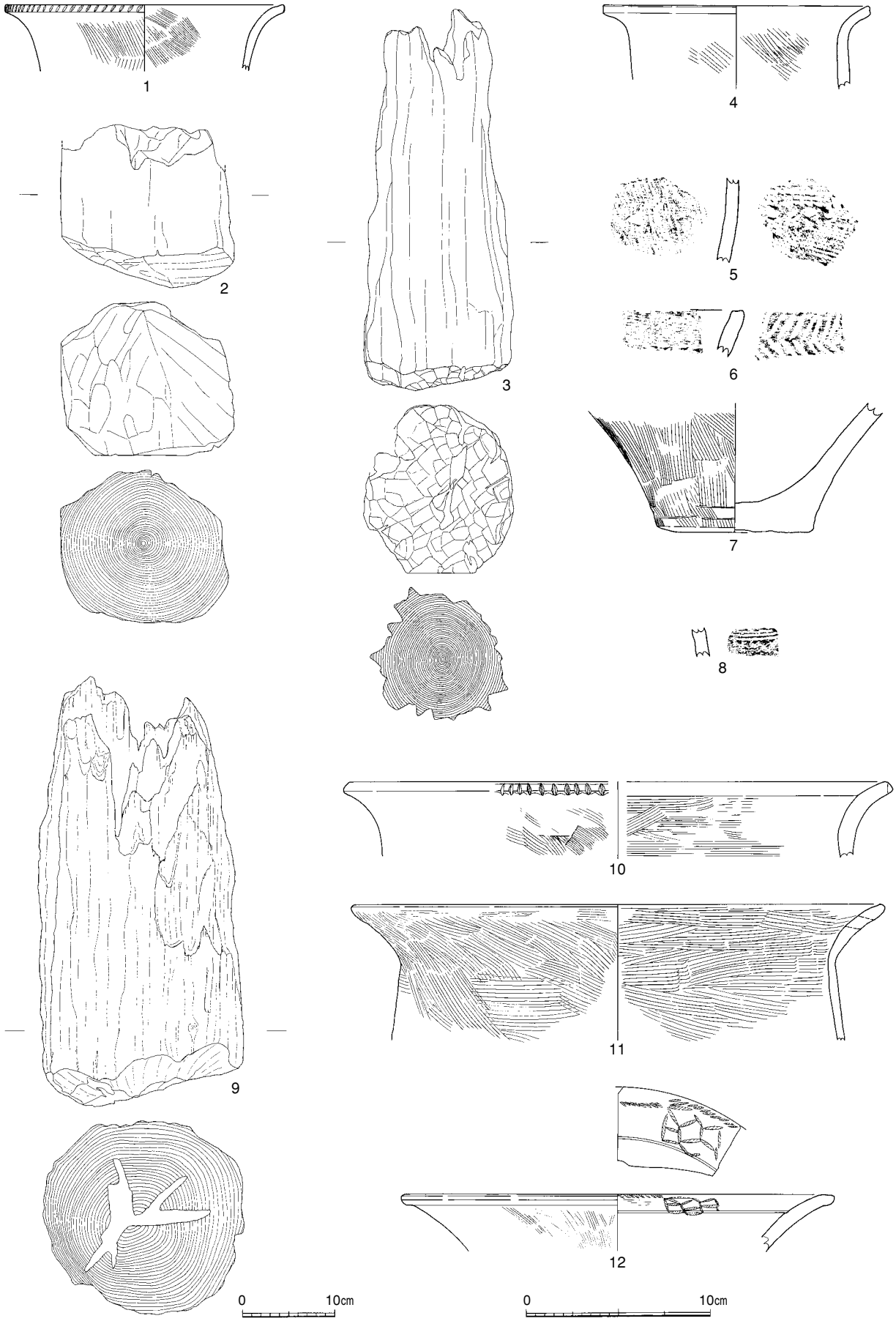
第６図　１区遺構平・断面図（S＝１/40）



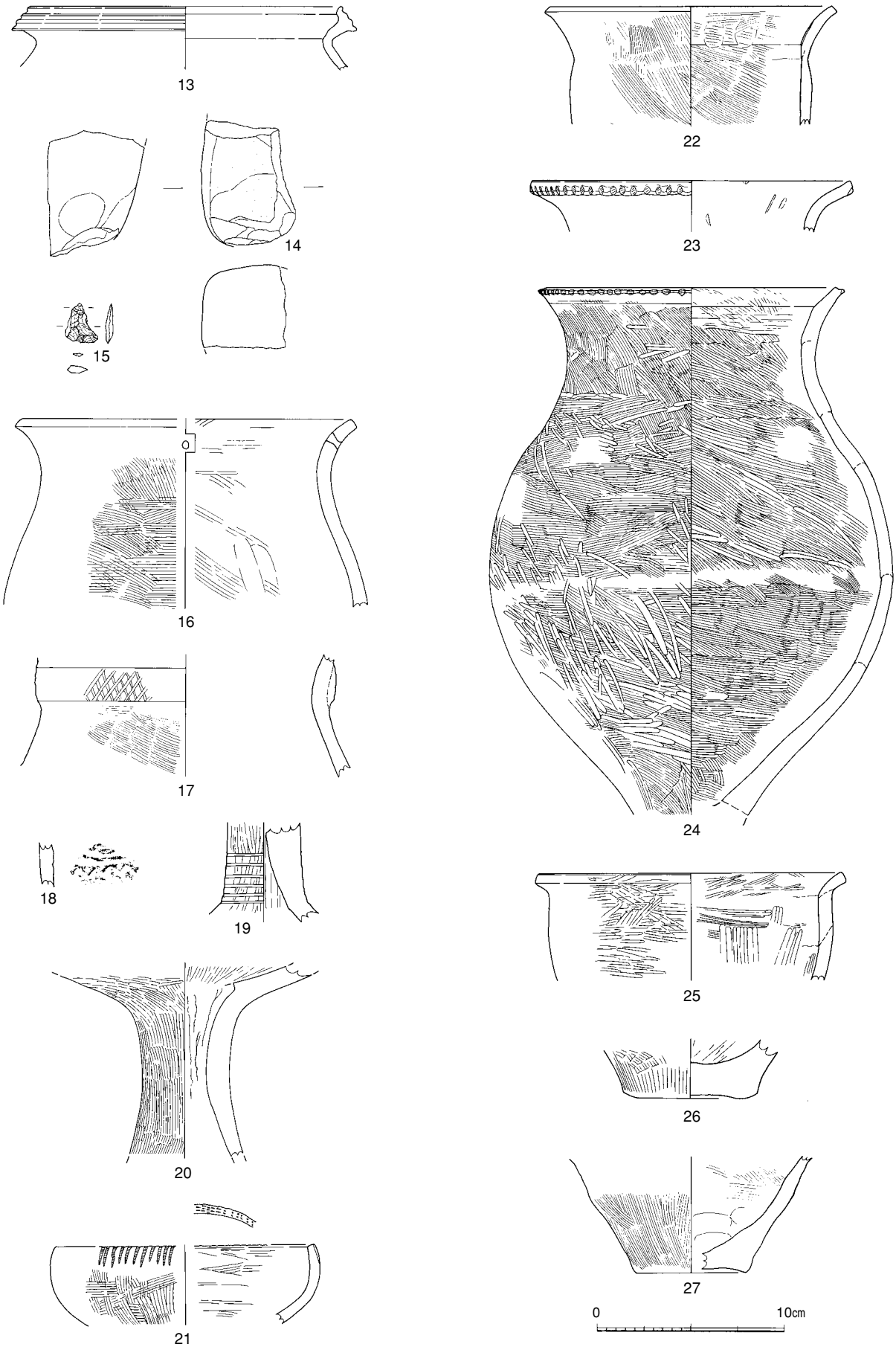
第７図　１区南半～２区北半遺構平・断面図（S＝１/40）



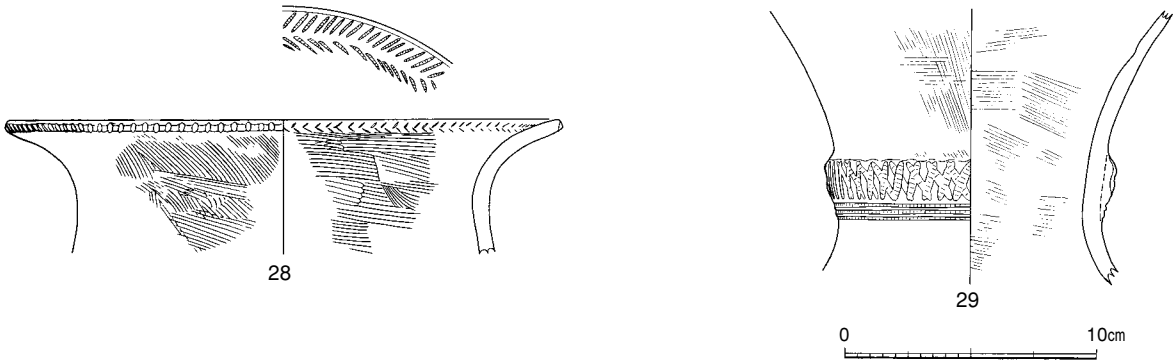
第８図　２区北半～３区遺構平・断面図（S＝１/40）



第９図　出土遺物１（ピット、SK）



第10図　出土遺物２（SK、SD）



第11図　出土遺物３（分布調査時出土）

外傾する面をなし、端に刻みを加える。器内外ともハケメを加え、口縁部内面はナデ調整し、中膨らみする体部外面にはミガキを、上半は所々に弱く、下半は全面に強く加えハケメが消える部分が多い。25の鉢は丁寧にミガキを施す。

ＳＤ06～08（第６図）

１区に位置する。いずれも北西から南東方向に伸び、ＳＤ06は幅40cm、深さ約20cm、ＳＤ07・08は幅20cm、深さ約５cm。覆土はいずれも灰黄褐色シルト質土であり、ＳＤ07・08は小砂利を含む。ＳＤ02と同じく耕土直下から掘り込まれており明らかに弥生時代の遺構とは異なる。時期は不詳だが、一帯が削平され客土が行われた時点をそう遡らない時期の所産であろう。

ピット（第６図）

１区では、柱根を遺存したＰ７・８・14のほかＰ５・９・13、Ｐ５西側に位置するピット、ＳＫ04あるいはＳＤ06北西端に位置するピットなどは、壁の立ち上がりが垂直に近く明瞭な掘り方を持つことから柱穴の可能性が高い。Ｐ８からＰ13あるいはＰ５へは直線的な配置にあり掘立柱建物の存在が推測される。さらに、ＳＤ05については平地式住居外周溝ともみられ、その内部のＰ７・８は位置的に適当である。ただ、限定された調査区のため全容をうかがうことは困難であり、ここでは可能性を指摘するにとどめたい。Ｐ７出土の柱根２は最大径18.8cm、残存長17.6cm、樹種はツバキ属、Ｐ８出土の柱根３は最大径16.3cm、残存長41.0cm、樹種はカエデ属である。また、Ｐ14出土の９は最大径22.3cm、残存長46.0cm、樹種はコナラ属である。Ｐ12出土の５は外面に押引き平行線、雑な斜行短線、縄状具の回転押捺を、６は綾杉状刺突を加える。７の底部はＳＤ05出土品と接合している。

28・29は分布調査時出土のものである。28の甕は口縁部内面に綾杉状刺突を加える。29の壺は貼り付け凸帯に斜格子刺突を加え、凸帯下には横位に刺突を繰り返すことで平行線３条を描く。

第３節　ま　と　め

調査の結果、浅く不定形をなすＳＫ02・03などは金沢市教育委員会検出土坑群と一連の遺構とみられ、ＳＫ03、ＳＤ04・05などから多量に出土した土器についても同時期としてよく、弥生時代中期後葉、櫛描文系土器は盛期を過ぎ、凹線文形土器が定着にむかう段階に位置付けられよう。分布調査結果から、調査区域は低湿地部に面した遺跡南東端にあたるとみられるが、今回、掘立柱建物あるいは平地式住居に伴うとみられる柱根や、未確定であるが井戸跡も確認されたことで、一帯には、地山に至るまで削平を受けながらも、なお濃密に集落跡の残る可能性が示されたといえよう。

報告番号	遺構 種類	器種	口径(cm) 底径(cm)	色調(内) 色調(外)	胎土 砂粒(0~2mm)	砂粒(2~4mm)	砂粒(4mm以上)	海綿骨片	焼土塊	焼成	調整(内) 調整(外)	遺存度(○/12) 口 底	備考	図化番号
1	P 4		15.0	鈍い燈	微	微	−	−	−	並	ハケ	1	胎土精良	A12
	弥生土器	壺		鈍い燈							ハケ	−		
2	P 7												樹種ツバキ属、残存長17.6cm、最大径18.8cm	木2
	木製品	柱根												
3	P 8												樹種カエデ属、残存長41.0cm、最大径16.3cm	木3
	木製品	柱根												
4	P11		14.4	鈍い黄橙	並	微	−	−	−	良	ハケのちナデ、ハケ	1		A16
	弥生土器	甕		鈍い黄橙							ハケのちナデ、ナデ	−		
5	P12			鈍い黄橙	小	微	微	−	−	並	ハケ	−		D2
	弥生土器	壺？		浅黄橙							ハケ	−		
6	P12			浅黄橙	微	微	微	−	−	並	ハケ	−		D1
	弥生土器	壺		浅黄橙							ナデ	−		
7	P12／SD05（東区）			黄灰	多	並	小	−	含	並	摩耗により不明	12		A15
	弥生土器	（底部）	8.5	灰黄							ハケ	−		
8	SK01			浅黄橙	微	微	−	−	−	並	摩耗により不明	−		D3
	弥生土器	壺		浅黄橙							−	−		
9	P14												樹種コナラ属、残存長46.0cm、最大径22.3cm	木1
	木製品	柱根												
10	SK03		(29.0)	鈍い黄橙	並	小	−	−	−	並	ハケ	1	外面スス付着	A17
	弥生土器	甕		鈍い黄橙							ハケのちナデ、ハケ	−		
11	SK03		28.6	鈍い橙	並	小	−	−	−	並	ハケ	3	外面スス付着	A18
	弥生土器	甕		淡褐							ナデ、ハケ	−		
12	SK03		23.6	鈍い橙	小	無1	−	含	含	並	ナデ	1	外面赤彩	A19
	弥生土器	壺		鈍い橙							ナデ、ハケ	−		
13	SK04		18.6	浅黄橙	小	無	−	−	−	並	ナデ	1	外面スス付着	A10
	弥生土器	甕		鈍い燈							ナデ	−		
14	SK04		縦(6.7)										厚さ5.2cm、重量（239.98ｇ）	石2
	石製品	磨・台石	横((5.0)											
15	SD02		長2.1										厚さ0.4cm、重量（0.99ｇ）	石1
	石製品	石鏃	幅(2.1)											
16	SD04（1区）		17.6	燈	並	微	微	−	−	並	ハケのち弱いナデ	1	口縁部外面補修孔あり、外面スス付着	A9
	弥生土器	甕		燈							ハケのちナデ、ハケ	−		
17	SD04（3区）			灰黄褐	並	微	−	−	−	並	ナデ	−	頸部径6.5cm、外面スス付着	A8
	弥生土器	壺		黒褐							ナデ、ハケ	−		
18	SD04（1区）			浅黄橙	微	微	無	−	含	並	摩耗により不明	−		D4
	弥生土器	壺		浅黄橙							−	−		
19	SD04（1区）			灰	並	微	−	−	−	並	しぼり	−	外面赤彩、脚部径5.3cm	A11
	弥生土器	高坏		灰							ミガキ	−		
20	SD04（3区）			鈍い黄橙	多	微	−	−	含	並	ミガキ、しぼり	−	脚基部径5.8cm	A6
	弥生土器	高坏		鈍い黄橙							ミガキ、ハケ	−		
21	SD04（3区）		(13.7)	褐灰	並	小	−	−	含	並	ハケのちナデ	1		A7
	弥生土器	鉢		褐灰							ナデ、ハケ	−		
22	SD05（西区）		15.0	鈍い褐	小	微	−	−	−	並	ハケ	2	外面スス付着、頸部内面指頭圧痕あり	A4
	弥生土器	甕		黒							ハケ	−		
23	SD05（西区）		17.0	鈍い燈	並	微	−	−	含	並	摩耗により不明	2		A5
	弥生土器	壺		鈍い燈							摩耗により不明	−		
24	SD05（東区）		15.3	燈	並	小	−	−	含	並	ハケ、ナデ、ナデ	8		A1
	弥生土器	壺		燈							ハケ、ミガキ、ナデ			
25	SD05（東区）		16.2	鈍い黄橙	小	−	−	−	含	良	ハケのちミガキ、ハケ、ミガキ	1		A2
	弥生土器	鉢		灰黄							ハケ、ハケのちミガキ	−		
26	SD05（東区）			浅黄橙	小	微	−	−	含	並	ナデ、ケズリ	−		A3
	弥生土器	（底部）	7.2	浅黄橙							ハケ	3		
27	SD05（東区）			灰黄褐	並	並	−	−	含	並	ハケのちナデ	−	外面スス付着	A20
	弥生土器	（底部）	5.8	灰黄褐							ハケ	6		
28	分布調査時出土		21.8	鈍い褐	並	小	−	含	含	並	ハケ	1	外面スス付着	A13
	弥生土器	甕		鈍い褐							ハケ	−		
29	分布調査時出土			鈍い燈	小	微	−	−	−	並	ハケ	−	頸部径10.4cm	A14
	弥生土器	壺		淡赤橙							ハケ	−		

第２表　出土遺物観察表

遺跡遠景（南から）

遺跡遠景（南東から）

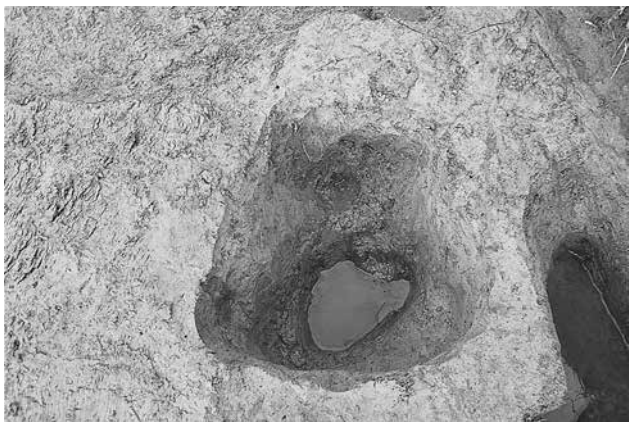
調査着手前の状況（南西から）

遺構検出状況（南西から）

完掘状況（全景、南西から）

図版 2

1 区完掘状況（南西から）



P 5 完掘状況（南西から）

P 7 柱根（西から）

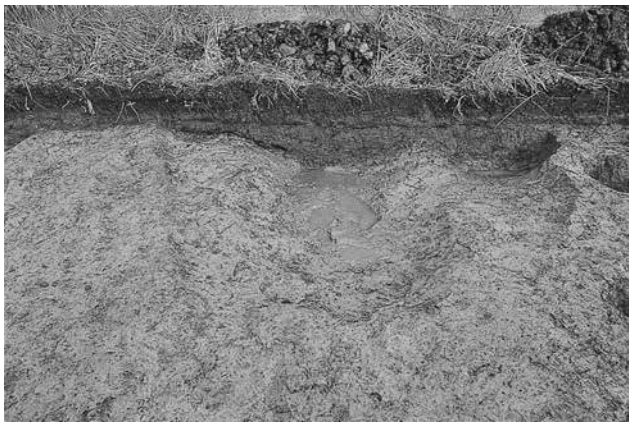
P 8 柱根（北西から）

P14柱根（南東から）

3 区完掘状況（南から）

ＳＫ01・02、ＳＤ01完掘状況（東から）

ＳＫ01断面（東から）



ＳＫ03完掘状況（西から）

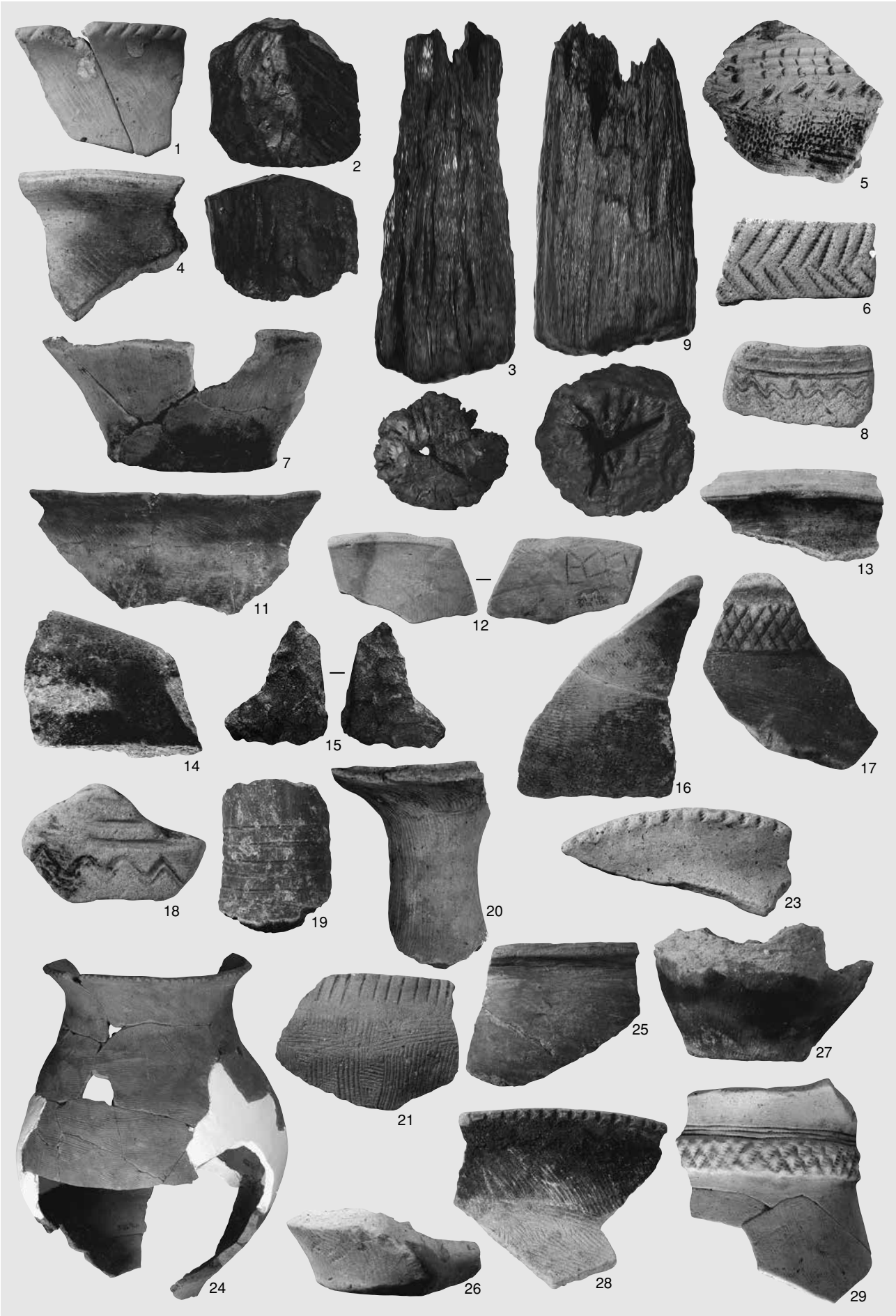
ＳＫ03断面（西から）

ＳＤ04完掘状況（南東から）

ＳＤ04断面（南東から）

ＳＤ05完掘状況（南東から）

図版 4



報告書抄録

ふりがな	かなざわし せんこうじようぎょじょういせき
書名	金沢市　専光寺養魚場遺跡
副書名	県単道路改良事業主要地方道松任宇ノ気線に係る埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	澤辺利明
編集機関	財団法人 石川県埋蔵文化財センター
所在地	〒920-1336　石川県金沢市中戸町18番地１　（TEL 076－229－4477）
発行機関	石川県教育委員会・財団法人 石川県埋蔵文化財センター
発行年月日	2006年３月31日

所収遺跡（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
専光寺養魚場遺跡（せんこうじようぎょじょういせき）	石川県金沢市専光寺町（いしかわけんかなざわし せんこうじまち）	172014	01092	36度34分13秒	136度35分13秒	20031114～20031203	170㎡	道路工事（主要地方道松任宇ノ気線）

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
専光寺養魚場遺跡	集落跡	弥生時代中期	土坑、溝、柱穴	弥生土器、柱根、石鏃	

要約

北陸において弥生時代中期後葉を代表する遺跡の一つである。隣接地を金沢市教育委員会が発掘調査しており、今回、掘立柱建物あるいは平地式住居に伴うとみられる柱根や井戸様の土坑が検出されたことから、一帯には、削平を受けながらも濃密に集落跡が分布する可能性が示された。

金沢市　専光寺養魚場遺跡

発行日　平成18(2006)年３月31日
発行者　石川県教育委員会
〒920-8575　石川県金沢市鞍月１丁目１番地
電話　076-225-1842（文化財課）

財団法人 石川県埋蔵文化財センター
〒920-1336　石川県金沢市中戸町18番地１
電話　076-229-4477
E-mail address　mail@ishikawa-maibun.or.jp
印刷　ハヤシ印刷紙工株式会社